令和３年度河川水質調査結果報告（９月実施分）

村では環境保全の状況確認のため、９月と１月の２回、谷太郎川、小鮎川、および金翅川の３河川（５ヶ所）の生活環境の保全に関する基本的な測定項目の調査を実施しています。

採水場所＼調査項目		実施日	ＰＨ	ＢＯＤ（単位：mg/ℓ）	ＳＳ（単位：mg/ℓ）	ＤＯ（単位：mg/ℓ）	大腸菌群数（単位：MPN/100mℓ）
谷太郎川	水の尻沢橋	令和３年９月27日	7.4	0.3	<1	9.8	49
小鮎川	原下地区	令和３年９月27日	7.7	0.1	<1	10.0	**3,300**
	片原橋	令和３年９月27日	7.8	0.4	<1	10.0	490
	寺鐘橋	令和３年９月27日	8.0	0.5	<1	9.9	330
金翅川	御門橋	令和３年９月27日	8.2	0.3	<1	10.3	**2,300**
基準値（目標値）			6.5～8.5	2mg/ℓ以下	25mg/ℓ以下	7.5mg/ℓ以上	1,000MPN/100mℓ以下

調査項目の解説		
	PH（水素イオン濃度）	ＰＨ７が中性で、それより数値が大きいとアルカリ性、小さいと酸性。
	BOD（生物化学的酸素要求量）	水のきれいさを示す代表的数値。数値が低いほど良い。
	SS（浮遊物質量）	数値が低いほど濁りが少なく、透明度が高い。
	DO（溶存酸素量）	数値が高いほど酸素量が多く、汚染源となる有機物が少ないため、数値が高いほど良い。
	大腸菌群数	し尿や土壌、植物などに由来する細菌の数を示す数値。数値が低いほど良い。

●記号「<」は、定量下限値未満であることをあらわします。
●小鮎川は水域類型Ａ、谷太郎川、金翅川は環境基準が定められていないため、２河川の流入先である小鮎川の水域類型Ａを目標値としています。
●基準値を超える数値は太字で表記しています。

●PH、BOD、SS、DOの項目全てにおいて、環境基準を満たす数値を計測しました。
●大腸菌群数の数値が多くなる理由は、気温や河川の水量、鳥獣のふん尿、流域の生活排水の流入などさまざまな要因があります。今回の大腸菌群数の調査結果は、BODやSSの濃度が低いことから、土壌や植物などの自然界に由来する菌種が多く検出されたものと考えられます。
●川に入ったときは、手足をしっかり洗ってください。

問 税務住民課環境係☎(288)3849